

課題図書の一部 佳作

濱田佳美さん 文学部国際文化学科4年

課題テーマ：大学とは何か

『大学4年間で絶対にやっておくべきこと』

森川友義著 / KADOKAWA

「自分とは何か」

この本の著者は早稲田大学国際教養学部教授である森川友義さんである。専門は進化政治学、国際関係論、日本政治だが、日本における「恋愛学」の第一人者としてメディアで取り上げられることも多い。森川さんの「恋愛学」の講義は早稲田大学でもとても人気だそうだ。内容は、人生編、恋愛編、実践編の3つの章に分けて、どんな風に大学生活を送れば後悔しないのか。そして、4年間の大学生活で、自分自身の価値をどれほど高められるか。主に、これから大学生活をスタートさせる高校生に向けて書かれている。

読んでみて特に重要だと感じたのは、自分の売りをつくること。これはこれからの人生を豊かにするためにも必要だ。自分という商品に価値を見出さなければ、社会人になっても苦労するだろう。なぜなら、人間は価値のないものより、価値のあるものに注目するからだ。多くの人間が共存する社会で、自分自身の存在価値を高め、他人との差別化を図ることが必要である。変わりたいと勇気が湧くようなヒントが盛りだくさんだ。自分の人生をより豊かな価値あるものにするのは自分自身だ。また、人との人脈も大幅に広がる大学生にとって出会いは人生を豊かにする鍵を握っている。

特に面白かったのは恋愛編である。本当の恋人を見つけないなら香水はつけないことや手をつなぐこと、キスの意味など恋愛学についての部分が科学的根拠に基づいて述べられているところが非常に興味深かった。

大学4年間は自分の魅力を最大限引き出すために設けられた時間だ。私は4年生になってからこの本を読んだ。読み終わって「しまった。大学に入る前に読んでおけば良かった。」と思った。大学生活も残りわずかな私にとって、この本の内容はタイトルにも書いてあるように“絶対に後悔しない”内容ばかりだった。過ぎてしまった時間はタイムマシンができない限りもう二度と取り戻せない。時間は無限にあるようにみえて、十数年しか生きることができない人間にとっては有限だ。高校生、大学生だけでなく、社会人になっても原石を見つけたような気分になり、これからの人生を送るうえで必要となるような知識満載の一冊。人生の夏休みと言われるほど、大学生は時間がたくさん与えられているが、いまいち時間をうまく使いこなせていないと感じること多くないだろうか？そんな悩める学生にぜひとも読んでほしいのがこの本である。読み終わった後に何か行動したくなってしまう衝動に駆られること間違いなしだ。